

茨城県生協連ニュース 臨時号 No. 43

東日本大震災復興情報 がんばろう！茨城

2011年9月2日 発行：茨城県生活協同組合連合会 水戸市梅香 1-5-5JA会館分館 5F 電話 029(226)8487

地震被災発生から、茨城県生協連の各会員生協は、営業の再開と組合員支援、地域支援などに取り組んでいます。その取り組みの一部を紹介します。震災からの復興のために、力を合わせてがんばりましょう。

「放射性物質とわたしたちの健康と暮らし」学習会を4地区（八千代・東海・常陸大宮・守谷）で開催しました。

茨城県生協連では、6月以来、県内各地で放射能関連学習会を開催しています。この学習会は、多くの方が放射性物質による健康への影響についての不安を抱えながら生活しているなかで、放射性物質と健康への影響についての正確な知識のもとで冷静な行動がとれるよう、放射線を専門に研究されている茨城大学の田内広先生をお招きして開いています。放射性物質とは何か、放射線による健康への影響、日常生活のおくり方などについて学んでいます。先生からは、日本放射線影響学会で作成された「放射線影響Q & A」の資料も使いながら、ひとつひとつ丁寧な説明をいただきました。

< 八千代町会場 >

2011年8月9日(火)の午後、八千代町菅谷の八千代町中央公民館3階会議室において、講演会を開催し、いばらきコープ、パルシステム茨城、よつ葉生協、の組合員さん、一般消費者など75名の方にご参加いただきました。

< 東海村会場 >

2011年8月19日(金)の午前、那珂郡東海村村松の村松コミュニティセンター2階会議室において、講演会を開催し、いばらきコープ、パルシステム茨城、生活クラブ生協、の組合員さんなど58名の方にご参加いただきました。

< 常陸大宮市会場 >

2011年8月19日(金)の午後、常陸大宮市北町のおおみやコミュニティセンター2階会議室において、講演会を開催し、いばらきコープ、パルシステム茨城、の組合員さんなど44名の方にご参加いただきました。

< 守谷市会場 >

2011年8月26日(金)、守谷市百合ヶ丘2丁目の守谷市中央公民館において、講演会を開催し、いばらきコープ、パルシステム茨城、常総生協、生活クラブ生協の組合員さん、一般消費者など99名の方にご参加いただきました。



< 守谷会場のようす >



< 八千代会場のようす >



< 東海会場のようす >



< 常陸大宮会場のようす >

講演後は、会場とも参加者のみなさんからたくさんの質問が寄せられ、講師の田内先生にはひとつひとつ丁寧に答えていただきました。家庭菜園で採れたものは食べて大丈夫

が、放射線量を下げるにはどうしたらいいのか、お米の放射線量はどうか、畑の土はどうしたらいいのかなど、たくさん質問が寄せられました。

< 震災対応へのお礼とそこで出会ったすばらしい人たち >

(茨城県生協連 専務理事 古山 均)

県生協連に赴任して1年もたたない中での震災。そんななか、会員生協の皆様が見せてくれた、復興への懸命な姿に、私自身とても驚くとともに、仲間の大切さを思い知らされました。自分も被災したにもかかわらず、まっさきに職場に駆けつけてくれた職員の皆様、深夜におよんだ支援物資の配送に従事してくれた皆様、被災した工場を支援するため重機をトラックに積んで支援に行かれた会員生協、共済加入者訪問にかかわった皆様、炊き出しに関わっていただいた組合員理事の皆様、福島・宮城への災害ボランティアに参加してくれた皆様などなど。これまでご支援いただきました会員生協の皆様、復興へのご尽力に、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

「震災ニュース」の最後に、私が震災復興対応のなかで出会ったすてきな方々を紹介したいと思います。

最初の方は、日立市の薄さんです。薄さんは震災当時、日立市役所総務部に所属し、避難されている方の食糧の手配をしていました。日立市は震災翌日には市内60か所の避難所に13,600人もの方が避難されていました。その食事を賄うため、薄さんは連日各方面に電話で連絡をとっていました。そんな中、県生協連にも薄さんから電話で大量の注文要請が入りました。菓子パンや、ヌードル、水、紙おむつ、粉ミルク、トイレトペーパー等々、数も大量で、調達はかなり厳しいものでした。被害が大きく、メーカーや取引先の商品在庫が底をついていたからです。そんな中、バナナの調達を依頼したコープネット事業連合会では、先を見越して、発注数量の倍にあたる量を確保してくれました。ちょうど10トントラック1台分です。倍の量ですが、この機会を逃すと、発注を受けた商品がいつ確保できるかわかりません。日立市でその量を受け入れてくれるかどうか、薄さんに電話したところ、すぐに調整してくれました。そのとき薄さんが言ってくれたのが「市民のため」という言葉です。「市民のために」ということで、スピーディな職務の遂行ぶり、その姿勢にとっても感銘をうけました。今は社会福祉課で奮闘されています。

次は、東海村社会福祉協議会の澤井さんです。震災1週間後、県生協連にパルシステム茨城から、紙おむつと粉ミルクの調達依頼がきました。理由を聞いたところ、東海村社協からの要請とのこと。当時粉ミルクは国で出荷統制をかけていて、自由に出荷させることができないため、紙おむつのみ用意し、お届けすることになりました。澤井さんに用途を聞いたところ、東海村社協では、震災後、村民に生活の中で困っていることや要望の聞き取り調査を行い、その中で、粉ミルクと紙おむつの要望がたくさん寄せられたので、関係団体等に片っ端から調達要請をかけたとのことでした。東海村社協は、震災後停電中でも防災無線を使ってボランティアを募集し、倒れた塀や瓦の片付け作業にあたるなど、村民のために積極的に活動されていました。社会福祉協議会、財政的にはけっして豊かではない中、村民のために、もっているネットワークをフル動員して、すばらしい活動をされている澤井さんをはじめ東海村社協のみなさんの姿勢に感動しました。

3番目の方は、いわき市のNPO がんばっぺ いわきネットワーク代表の蛭田江里子さんです。生協らしい支援ということで、「炊き出し」を考えたのですが、どのようにすればいいのかわからないで見当もつきませんでした。NPO センター・コモンズに相談したところ、蛭田さんを紹介してくれました。蛭田さんがいわき市内の各避難所と市役所を回り、「野菜が不足しているので、野菜を提供してほしい」とか、「肉も不足している。バランスのとれた食事を提供してほしい」と要望を出してくれたり、炊き出しが十分行われず、栄養が不足している避難所はどこか、どのくらいの量が必要かなどの情報をご提供いただきました。蛭田さんは、震災直後もいわき市内の避難所をまわり、支援に駆けつけてくれた自衛隊員に、避難所の場所や避難されている人数、不足している物資などの情報を提供し、自衛隊による避難所への物資配送に大きな貢献をされたとのことでした。いわき市民のため、小さな体で、しかも無報酬で、エネルギーを駆けて回っていた姿 忘れられません。今でも、いわき市内をかけまわって、復興に貢献されています。

4番目の方は、茨城 NPO センター・コモンズの大野さん、安久さんです。私を災害ボランティアの道に導いてくれました。ボランティアとは「助けあいの心」であること、そして、ボランティアを通じて、助け合いのある、すばらしい社会が出来上がっていくという展望も指し示してくれました。私たち県生協連の災害ボランティア活動は、最初はいわき市での活動からはじまり、6月からは宮城県へボランティアバスを運行するまでになりました。参加した職員はみんな、自分の人生を振り返り、さらには、仕事についても問い直すことができ、充実した時間を過ごすことができている。お二人に感謝です。

今後も、ここで出会った人たちとのネットワークを大事にしながらか、その輪をもっと広げて、震災復興と安心してらせる地域社会づくりにすこしでも貢献できたらと思っています。これからもご協力よろしくお願ひいたします。

今第43号をもって、「茨城県生協連ニュース臨時号 東日本大震災復興情報がんばろう！茨城」の発行を終了いたします。今後は、通常の「茨城県生協連ニュース」を再開いたします。長い間ありがとうございました。(茨城県生協連 事務局)